

「現地を訪問して想うこと」

卒業年：1998年 卒業学部：経営学部

参加者氏名：南 武利

過去に、通過地点として岩手県内を移動し、車窓から県内の山並みを眺めたことはありましたが、今回目的地としては初めて、岩手県を訪問しました。

私は東京都在住ですが、JR盛岡駅までの移動距離は500kmを超えます。埼玉県の
大宮駅から新幹線に乗り、大宮駅から盛岡駅までの乗車時間は2時間足らずなので、それほど長い、遠いとは感じませんでした。盛岡駅で校友と合流し、バスで県内を移動してみると、岩手県はすごく広くて、遠くて、そうそう来られる場所ではないなと実感しました。

復興の状況はどうか。2年前に訪れた宮城県沿岸部の被災地の風景と比べると、沿岸部の防潮堤工事や土地のかさ上げ工事は進んでいる様子でしたが、目に入る風景の中に人がいない、少ないため、復興のイメージが湧いてきませんでした。岩手県沿岸部の風景を眺めながら、ふと日本の人口減少、空き家問題、高齢者による交通事故の多発、増大する社会保障費・国の借金のことが頭をよぎり、「この場所に、いつまでも税金をつぎ込み続けてよいものか。」と不安になりました。震災前ここに住んでいた人たちは、他の場所に移り住み、もう戻らないという人も多いと聞きます。政府も、現状に則して復興事業を弾力的に見直していく姿勢は見せているものの、人口減少に対応する妙案はありません。

私は東北の復興には、首都圏から人を呼び込み、交流人口を増やすのが有効だと思います。そのための具体策で、カネをかけず、すぐにできるのが、ライドシェア（クルマの相乗り）、民泊、副業の推奨、長時間労働の是正ではないでしょうか。政府が、ビジネスモデルとしてのライドシェアや民泊を進めると抵抗勢力が多く、法整備は遅々として進まないの、「相互扶助」の精神で、SNS繋がり友人・知人・親戚らと一緒に、車の相乗りで出かける、空家になった東北の実家や、東北在住の友人宅に泊まるとか、そういうことを個人的に推奨したいです。

昨今、LCC や夜行バスなど、運賃の安い交通手段も出てきましたが、一番人の移動を生み出せる交通手段は、自家用車「クルマ」だと思います。新幹線や飛行機も適正な運賃設定ではあるものの、頻繁に、気軽にあちこち行けるような運賃の額ではありません。

残業せず金曜日の18時に家に帰ることができれば、それから仲間と一緒に東北に向け、クルマで出かけられるのではないのでしょうか。土日に東北で、普段と全然違う副業を試みるのも楽しいと思います。週末だけでも東北の空き家を使う人がいれば、その家は、

「空き家」ではなく、「セカンドハウス」や「週末別荘」に変わります。ほったらかしの蜘蛛の巣が張った家は誰も買いたいと思いませんが、定期的に掃除やメンテナンスをされた家であれば、流通価値も認められると思います。震災から5年7か月が過ぎた被災地を見て、復興事業の見直しや廃止の必要性を強く感じました。もう東日本大震災の被災地だけを見て復興を語る時期は過ぎていて、被災地の個別の状況を注視しつつも、日本全体を俯瞰して、「さあ、どうするか。」と具体的に考え行動する時期だと思います。校友の皆様には、是非周りに声をかけてクルマで東北に足を運び、東北の被災地のこと、お住まいの地域のこと、日本の将来のことを考えるきっかけにいただけたらと思います。